

全苗連だより

Vol. 94 (2月号)

令和4年2月28日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

(技術情報)

令和3年度林木育種成果発表会(主催；国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)が開催されました

令和3年度林木育種成果発表会(主催；国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 林木育種センター)が2月18日(金)にオンラインで開催されました。その概要をいくつか紹介いたします。

1 特別講演「森林資源造成の課題と林木育種への期待」 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授 丹下 健

丹下教授からは、林業の長期性から収穫時の確実な需要を見通せない中、50年後にどのような材が求められるか、そのために必要な林木育種は何かについての話がありました。

内容としては、

- ・ 収穫期を考えたときに、人口減少により木造住宅需要が減少(柱材や板材の需要減)するものの、中高層木造建築物の需要は増加、このことにより、今後、大断面材、集成材やLVLの需要が高まり、より強度の高い木材・材比重の大きい樹種や個体が求められるようになるのではないか。
- ・ 現在、国内の木材需要は燃料材需要のみが増加していることを考えると、ヤナギ等早生樹を使った燃料材生産林の造成技術の開発が求められるのではないかと。
- ・ 将来の森林資源造成には、林業の採算性向上が必須で、再造林コストの低減、特に最も経費が掛かる下刈りの軽減が必要。それには早生型の品種が有効だが、成長が良い林地であれば、早生型の品種に頼らなくても下刈り作業の必要性が低くなるという研究結果もある。
- ・ 加えて、鹿(シカ)等への対策経費が掛かり増しになっている中、林木育種による野生動物食害の軽減、食害

令和3年度
林木育種成果発表会
~新しい時代の森林・林業を支える林木育種~

開催日：令和4年2月18日(金) 13:30~17:00
会場：オンライン開催
※事前申込み要

特別講演 森林資源造成の課題と林木育種への期待	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 丹下 健
特別報告 東京都における花粉症対策試験の取組	公益財団法人東京府森林産物振興機構 東京都森林総合研究所 研究企画室 室長 中村 謙一
成果発表 (林木育種センター・育種場・森林バイオ研究センター)	
令和3年度の品種開発	育種部 育種第一課 育種調査官 山野 直太郎
スギのコンテナ苗育成技術の開発	育種部 育種第二課 育種研究室 室長 八尋 博子
原産苗木増産に向けた効率的なカラマツつぎ木技術の開発	東北育種場 育種課 育種研究室 室長 井城 泰一
関西育種基本区におけるエリートツリー群の特性について	関西育種場 育種課 育種研究室 室長 中澤 敦史
林木遺伝資源の特性評価 —ヒノキ精英樹における差別感受性の評価について— 気候変動への耐性を評価して —クニヤにおける耐病性樹種改良の10年とこれから 木質形成の解明に向けた基礎的アプローチ —隣り合う樹種が与える異なる運命— 育種場等については、変更となる可能性があります。	遺伝資源部 採集収集課 分類鑑定研究室 室長 中澤 直十 指導官・海外協力部 課長 塚本 洋子 森林バイオ研究センター 森林バイオ研究室 主任研究員 高田 由樹

主催：(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター
お問合せ先：育種企画課 福田・機本
TEL：0294-39-7002
FAX：0294-39-7306
E-mail：ikusyu@ffpri.affrc.go.jp

申込方法等詳細はWebサイト http://www.ffri.affrc.go.jp/files/research/news/2021/23_senkabappokai.htmlをご覧ください。

を受けにくい系統の選抜ができないか。
という、林木育種への期待を込めた講演でした。

2 特別報告「東京都における花粉症対策試験の取組」

東京都農林総合研究センター 研究企画室長 中村 健一

東京都の中村室長からは、都の花粉症対策試験の取組成果について報告がありました。

都では少花粉品種の植栽を進めており、少花粉ヒノキミニチュア採種園における種子採種技術の開発に取り組んでいるとのことでした。

小さな木のサイズで着花促進をするために、ジベレリンペーストを使った手法を開発、最適な施用量・回数、時期について説明がありました。また、カメムシ防除ネットを採種木にかぶせることで40%以上も種子発芽率が向上すること

のことでした。さらに、試験の結果、苗畑、林地植栽後もジベレリン施用による植栽木への影響は特に見られないとのことでした。

ヒノキミニチュア採種園の剪定方法についても紹介がありました。ヒノキは萌芽力が弱いとされ、小型木については枯死の懸念からこれまで剪定してきませんでした。今回、実際に円柱型と円錐型の剪定を行い経過観察したところ、剪定の形や剪定の強度にかかわらず、枝の伸長が見られ、剪定しても問題ないことがわかったとのことでした。また、上枝の方の伸びが良いことから、下枝への影響を考えると円錐形が好ましいとの結果がみられたとのことでした。

このほか、無花粉スギの開発状況についても報告がなされました。



東京都のミニチュア採種園
(写真は東京都農林総合研究センター提供)
※白いものはカメムシ防除用ネット

3 「スギのコンテナ苗育成技術の開発」

林木育種センター育種部 育種研究室長 大平峰子

林木育種センターでは、精英樹同士を交配した実生苗を、実際に山に検定林として植栽しており、その苗木の育成期間の短縮・活着率の向上のためにコンテナ苗育成技術の開発をしており、その成果について発表がありました。

播種から1年で30~40cmのサイズのコンテナ苗を育成するため、肥料濃度、播種時期を変えて試験した結果、早く播種することで発芽日数は多く要するものの、発芽時期を早めることができ、苗木サイズを大きくすることが可能という説明がありました。

また、施肥については、窒素とカリウムの割合を苗木の生育段階に併せて変えるとともに、元肥と追肥の濃度試験を行い、成長に最適な濃度を検討する等により、適切な条件を整えることで、1年での出荷は十分可能という結果が得られたとのことでした。



1年で育成したスギ実生コンテナ



大平室長の発表状況

(写真は林木育種センター提供)

全苗連・苗組の行事予定

～R4.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤苗木被害の早期診断等の実施 ⑥その他研修会の実施等 ⑦種苗の需給情報等を共有する取組 実施者;全苗連、都道府県苗組

2月3日 コンテナ苗生産技術等標準化に向けた調査委託事業第3回検討委員会(日本森林技術協会)

2月7日 当年生苗導入調査委託事業検討委員会(日本森林技術協会)

2月18日 令和3年度林木育種成果発表会(森林総合研究所林木育種センター)(オンライン)

2月24日 一般社団法人日本林業協会定時総会(三会堂ビル)

3月18日 林退共運営委員会第46回(千代田区大手町カンファレンスセンター)

3月18日 林業薬剤協会第3回理事会(学士会館)

【令和4年度】

5月13日 全苗連理事会(ホテルメトロポリタンエドモント3階会議室)

5月27日 全苗連総会(ホテルメトロポリタンエドモント3階会議室)

9月29日～30日 第6回全苗連生産者の集い(宮崎県「宮崎市民文化ホール」)